

## 6 指標や目標値の設定と評価方法

### (1) 指標・目標値の設定

本市のまちづくりの基本的な考え方や目標の実現に向けた指標・目標値を設定します。

#### 【居住誘導に関する指標】

指標	居住誘導区域内の人口密度	
	少子高齢化が進行し、人口が減少に転じることが推測されるなか、中心拠点や地域拠点の生活利便性の享受や公共交通の利用しやすい居住誘導区域内への居住誘導を図ることで、平成 27 年（2015 年）の実績値と同程度となることを目標とする。	
現況値	平成 27 年（2015 年）	73.6 人/ha
中間検証値	令和 7 年（2025 年）	77.3 人/ha (資料：令和 2 年国勢調査)
目標値	令和 22 年（2040 年）	73.6 人/ha

#### 【都市機能誘導に関する指標】

指標	小売業中心性指数 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">商業統計</span>	
	市外への購買力の流出傾向が大きくなるなど中心拠点や地域拠点の求心力が低下するなか、商業や業務機能のほか文化機能や公共サービス機能の導入などを通じて拠点性を高めることで、購買力の流出をおさえ平成 27 年（2015 年）の実績値の 3 割程度の増加を目標とする。	
現況値	平成 27 年（2015 年）	54.9
中間検証値	令和 7 年（2025 年）	62.1 (資料：令和 3 年経済センサス・活動調査、令和 2 年国勢調査)
目標値	令和 22 年（2040 年）	70.0

#### 【公共交通利用に関する指標】

指標	主要停留所乗降客数 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">市統計書</span>	
	少子高齢化の進行に伴い路線バスによる通勤・通学利用者の減少が見込まれるなか、高齢者をはじめとする移動弱者の移動手段の確保に向けて路線バスの利用促進施策を講じることで、中心拠点、地域拠点にある松井山手駅、新田辺駅、京田辺駅、三山木駅におけるバス停留所の乗降客数を平成 27 年（2015 年）の実績値と同程度となることを目標とする。	
現況値	平成 27 年（2015 年）	247 万人/年
中間検証値	令和 7 年（2025 年）	229 万人/年 (資料：令和 4 年度乗降客数)
目標値	令和 22 年（2040 年）	247 万人/年

【持続可能な都市経営に関する指標】

指標	平均住宅宅地価格（居住を誘導する区域） <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">地価公示</span>	
	少子高齢化の進行に伴う人口減少が見込まれるなか、居住誘導区域内へ住居を誘導しコンパクトな都市を形成することで、適切なサービス水準の維持による持続可能な都市経営の推進を図ることにより、都市の魅力が向上することで、地価の下落をおさえ平成 27 年（2015 年）の実績値より上昇することを目標とする。	
現況値	平成 27 年（2015 年）	110,496 円
中間検証値	令和 7 年（2025 年）	114,693 円 <small>（資料：令和 7 年地価公示）</small>
目標値	令和 22 年（2040 年）	上昇

【財政に関する指標】

指標	人口一人あたりの税収額（市税）	
	社会保障関係費や人件費の増加、物価上昇等により厳しい財政状況が見込まれるなか、安定した税収を確保するための土地利用を促進し、魅力あるまちづくりを進めることで、平成 27 年（2015 年）の実績値の 1 割程度の増額を目標とする。	
現況値	平成 27 年（2015 年）	155 千円
中間検証値	令和 7 年（2025 年）	161 千円
目標値	令和 12 年（2030 年）	169 千円

（2）評価方法

本計画は、概ね 20 年後の都市の姿を展望したものであり、目標年度は令和 22 年（2040 年）と設定しています。そのため、本計画の実現に向けて PDCA の考え方に基づき、概ね 5 年毎に目標値の達成状況や施策、事業の実施状況に係るチェックを通じて評価を行うものとします。

なお、計画の評価を通じて見直しが必要と判断された場合には、必要に応じて適宜、改定を行うものとします。